

メッセージアウトライン

2014年8月31日(日)

聖書箇所：ヨハネ5：1～9

メッセージタイトル：「よくなりたいか」

テーマ：38年間も病の床にある男へのイエスの問いかけは、不思議な問いである。「よくなりたいか。」 この単純な質問は、この男の抱えている本質的な問題を明らかにする。主が私たちに「本当に問題を解決したいのか」と問われる時、主は何を私たちに明らかにしようとされているのか。

はじめに：

◎イエスによって癒された男の物語

時：ユダヤ人の祭りの頃（おそらく過ぎ越しの祭り）、この日は安息日

場所：エルサレム、羊の門近くのベテスダと呼ばれる池にある5つの回廊

大勢の病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者が伏せっている所

登場人物：イエス

38年間、病気にかかって伏せっている人

病んだ人たちはなぜベテスダの池の周りに集まっていたか：

- ・天の御使いが時々この池に降りて来て水を動かす。水が動かされた後、最初に水に入った者が、いかなる病気でも癒されるとされていたから。

イエスはなぜこの人に目を留められたか：

- ・理由は、はっきりとはわからない。しかし、イエスがこの人の長年の苦しみをご存じだったからだと思われる。

この病人に対するイエスの質問：「よくなりたいか」

本論：

◎イエスの質問の持つ意味

*病人（しかも長年、病気で苦しんでいる人）に、「よくなりたいか」という質問は当たり前すぎる（ように思われる）。

*この病人は意外にも「はい、よくなりたいです」と即答していない。

*イエスの質問は、はからずもこの病人の心の思いを明るみに出した。

◎この病人の心の中にあったもの

*彼にとっては38年もの長わずらいで、一応、癒しを求めてベテスダの池には居るものの、とっくに希望を失っている。ベテスダの池にいるのもすでに生活の一部であって惰性のようなもの。

*病気の状態が当たり前すぎて、実は他の生き方がわからない。病気の中にいることによって、一つの安定を得ていると思われる。

*彼の持っていた結論……①水が動かされたとき、水の中に入ることができれば癒さ

れる ②自分には水の中に入れてくれる人が必要だ ③自分が癒されないのは、水の中に入れてくれる人がいないからだ（自分のせいではない、入れてくれない人が悪い）。

◎イエスの問題解決 「起きて、床を取り上げて歩きなさい」

*病人の心を真の癒し主に向けさせる（癒されないのは、水の中に入れてくれる人がいないからではないことに気付かせる）。

*真の癒しは、真の癒し主から与えられることを示す。

*真の癒し主の命じておられることに従う→病人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。

◎問題の本質

*彼自身が癒されるという希望を失っていたこと。

*水の中に入れるかどうかの問題ではなく、真の癒し主に心に向けることの大切さ（真の問題解決は主ご自身から来るのに、彼がそれ以外のものに望みを置いていたこと）

*癒しが与えられない（問題が解決されない）のを他人のせいにしていたこと。

結論：

私たちもいろいろな問題を抱え、それを解決したいと願うとき「本当に問題を解決したいと願っているか（よくなりたいか）」と問うておられる主に、どのように応答するのか。

*「はい、解決したいです」と即答するのか。

*誰々が何々してくれないからと、他人のせいにするのか。

*希望を失い、弱さに逃げ込んでいる自分の姿をごまかそうとするのか。

*イエス・キリスト以外に解決を見出そうとするのか。

*まっすぐ、主イエスを見上げるのか。

*主の言葉に即座に従うのか。

私たちが、自分の抱えている問題の本質を知ろうとしないまま、問題を解決することはむずかしい。イエスは、当たり前に見える、けれども非常に率直なアプローチで私たちに迫って来られる。ヨハネ4章では、イエスはサマリアの女に「水を飲ませてください」とアプローチされた。イエスとの会話を通して、自分の問題とイエスがキリストであることに目を開かれていく女の変化がよくわかる。

ただ、ここでの病人はそこまで自分を理解していたとは思えない。また、イエスに対する信仰を持っていたとも思えない。しかし、主はこの病人を憐れんで、彼に彼自身が陥ってしまっている現実の姿を教えて下さろうとした。そして、命じられた。

私たちが陥っている不信仰の床はないだろうか。「よくなりたいか」「問題を解決したいか」と問われる主に、なんと答えればよいのだろうか。問題の本質に目を向け、真に信頼できるお方、イエス・キリストに目を向けよう。その命令に耳を傾けよう。